

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

未来を支える税金

長洲町立長洲中学校

三年 瀬崎 祐希

「税金は高い、年金は少ない。制度は複雑でよくわからない。」今まで私はそう思っていました。しかし租税教室で、所得税や住民税、消費税等の税金や年金、医療、雇用、介護等の社会保障は、私達の生活に直接関わるものだとなりました。そこで私は社会保障についてどんなしくみがあるのか調べてみました。

私達が生きる必要最低限の生活を保障してくれるのが社会保障制度です。今の日本は、少子高齢化社会となっていて、高齢化が進んでいくと、年金、医療、介護等の給付額は大幅に増えていくことが予想されます。それに対して社会保障を支える働き手は減少していきます。そのため社会保障の給付額が社会保険料を大幅に上回って、国の財政も赤字だらけです。赤字になった原因を調べてみると、二〇〇〇年度からはじまった「介護保険制度」と二〇〇八年度からはじまった「後期高齢者医療制度」がありました。この財源は、公費が五割、現役世代からの支援金が四割、自己負担分が原則一割を負担して成り立っています。増大する高齢者の医療費は日本の大きな社会問題の一つです。しかし高齢者が病気やケガを完治し健康で元氣な生活を取り戻すことは当然の権利でもあります。

私の祖母は、シルバー人材センターの家事代行サービスをしています。高齢者が働くことを通して生きがいを得ることを目的とする、地域社会の活性化に貢献する組織です。祖母に仕事内容を聞いてみると、主に掃除、炊事、洗濯が多いそうです。作業目安は一回に三時間から四時間程度で、家庭の主婦レベルで無理しないで働いています。利用する人は高齢者が多いそうです。高齢者の中には、人に会う機会が少ないため「話し相手になつてほしい」と依頼されることがあると聞き驚きました。話し相手のついでに掃除をしたり料理の作り置きをしたり、日常の生活の中で話し相手がいなくて寂しい思いをされているそうです。

私は高齢者にとって寄り添う優しさや、話しかけることが大事だと感じました。もつとご近所の人や家事代行スタッフと関わりを持って、話をすることで脳の活性化を促し認知症を防ぐ事が出来るかもしれませんし、人と接する機会が少ない高齢者にとって新しい話し相手が出来るという事は精神面でもとても良いことだと思います。不安や寂しさを取り除いて生きる楽しさに繋げてほしいです。

これからの日本では少子高齢化や厳しい財政状況を踏まえて安心して暮らせるための社会保障制度や財政構造の構築が必要です。そのためには納税者である国民一人一人が正しく税金を納める義務があります。私達は「税金」によって様々な恩恵を受けていることを忘れてはいけません。そして税金が様々な面で私達の生活を支えてくれていることに感謝しながら、納税の責任と義務を果たす大人になりたいです。